



中 重富
アラヤ(株)
社長

国内3拠点目の福岡支社を開設

「九州は、東アジア諸国との

距離が近く、輸出産業が盛んな地域。その一方で、本格的な翻訳会社が少ない、地元企業が、海外との取引に伴う外国語資料の作成や多言語翻訳を東京の会社が発注しているケースが多い」と説くのは、翻訳、取扱説明書制作などを手掛ける・アラヤ(株)の中 重富社長。

東京都目黒区に本社を置く同社は、前段に挙げた現状を踏まえ、1月18日、福岡市博多区博多駅東3丁目に福岡支社を開設した。国内の拠点開設は東京都、大阪に次ぐ3拠点目となった。「拠点開設で直接対応できる体制を整え、原稿作成から翻訳・編集まで、細かいニーズに素早く応えていく」と地域密着の姿勢を見せる中 重富社長。福岡支社では半年以内にも、100人増員を計画しており、1年間で取引先50社を目標に掲げている。

る。

同社は2004年4月設立。400人を超える翻訳者のネットワークを駆使して世界約50か国の言語を扱っている。家電メーカーなど輸出企業との直接取引で、ドイツ、中国・大連、香港を拠点に海外市場にも積極的に進出。翻訳をはじめとした様々なサービスをトータルに提供して、4期目となった08年12月期決算は売上高12億5000万円と急成長を遂げる。

自身は東京都出身、1947年11月22日生まれ。61歳、三井銀行勤務を経て、89年から2004年まで翻訳会社の役員として活躍後、同年4月にアラヤ(株)を設立した。福岡の印象については「食べ物美味しく住みやすい街。福岡がますます好きになりそうな予感がする」と笑顔で語った。



1月18日開設した福岡支社、オフィスはコーポレートカラーの赤を基調としている